

馬場ひでゆきの活動日誌

No.19

高田公園のお花見の季節がやってきました。桜をテーマにした歌の中で大好きなのは、森山直太郎の「さくら」です。「さくら」「さくら」と一つの「さくら」の言葉をかみしめることに過去の楽しかった一つ一つの思い出がよみがえってきます。この号が皆さんに届く頃には満開になっているのでしょうかねえ。そして、お花見が終わると上越市議会議員選挙です。頑張りましょうね。

介護の質を高める学習会参加

3月17日午後2時から上越市福祉交流プラザで第31回介護の質を高める学習会「長寿百歳を時代をどう生きるか」をテーマに井上千津子さんが講演をされました。会場の教室は満席でした(当日は秘書の荊木が参加しました)。

人類の知恵と努力によって出来上がった長寿社会とそのリスク、現在の介護保険制度の問題点などについての説明があり、「人生百年、まずは80歳の壁を乗り越え、さらに85歳の壁を乗り越えろ」とそれにはどうしたらよいかというお話もありました。

最後に参加者の中で最高齢の90代の樋口麦子さんが、長生きの秘訣についてお話してくださいました。樋口さんは常に社会的なことに関心をもたれ、健康にも留意され、友人同士の会話や食することも楽しみ、おしゃれにも気を遣って、毎日をお過ごしされているとのことでした。

馬場の支援者の中にもご高齢の方がいますが、皆さん本当に明るく元気です。見習って百歳目指して過ごしていきたいです。

(荊木記)

県政市政報告会in三和

3月23日午後2時から三和区公民館で上野市議とともに県政・市政報告会を行いました。約30名の方にご参加いただきました。

地域医療の再編、持続的な農業を可能にするための施策など、地元の議員はもっと行政に意見を述べてほしい、などの要望が

出され、私、上野さんと参加者の皆さんとの間で活発な意見交換がされました。

議員の資質が劣化しているのではとの厳しい質問もされました。

でも、こういうミニ集会、ライブがいいですね。「元氣の出る集会だった」という感想もいただきました。これからもどんどんやっていきます。



馬場とおしゃべり会in牧

3月24日午前10時から、牧区落田公会堂で、橋爪市議とともに県政・市政報告会を行いました。約20名の方からご参加いただきました。

参加者からは昨年の夏のような干ばつに備え簡易でもよいのでため池の設置の要望や、高齢化に伴う除雪の補助金の

分配の質問、農業人口減少と農業の維持についての要望などが次々に挙げられました。橋爪市議は、どの質問にも丁寧に対応していただきました。橋爪議員の姿をみて、まだまだ勉強するべき課題が多いと反省しました。1年目の議員生活が終わっ



てホッと一息ですが、のんびりはできません。



おしゃべり会に参加

シニアの女性の皆さんが、当事務所を利用して月に1回程度、勉強会を開催しています。

当初は、市民プラザなどを利用して3人くらいから始めたそうです。今回「おしゃべり会」と会の名前が決まりました。食卓のことから世界の政治まで、皆さん普段思うことを幅広いテーマをもっておしゃべりしながら学んでおられます。



今回は私が県議会の議場でした予算案についての反対討論の様子を視聴していただきましたので、私も出席して議会の状況などをご説明させていただきました。

共産党時局演説会に参加

3月30日は、リージョンプラザ上越で、日本共産党時局演説会、小池晃書記局長・参議院議員が講演しました。私も、日本共産党上越市議会議員の橋爪上野、平良木さんとともにご挨拶しました。



私の推し本その8

壺井栄著『二十四の瞳』(岩波文庫他)

現在の私だけを見ている人にはなかなか信じてもらえないのですが、幼少期に紫斑病という病気になり、しばらくは血小板が少なく、運動を制限され、体育の授業はいつも見学でした。何で他の子と同じように遊んだり、運動したりできないのか、とても切なくてやるせない気持ちになりました。

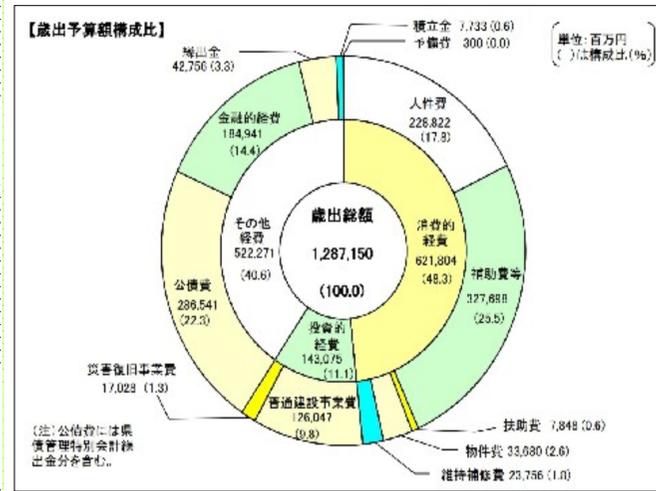
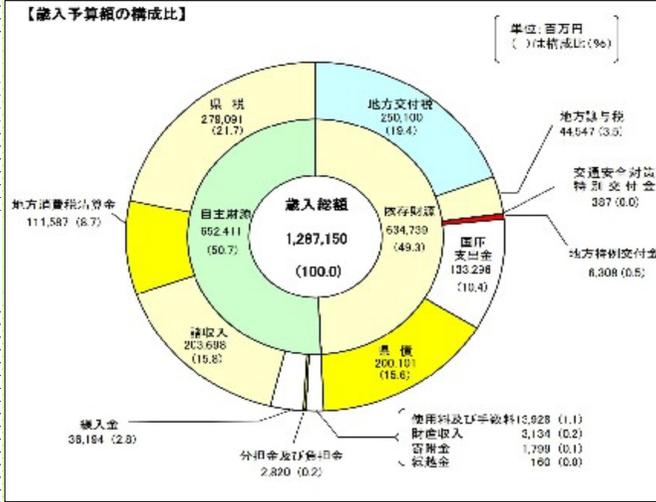
だから、映画『二十四の瞳』(監督木下恵介、主演高峰秀子)の金毘羅の参道のシーンが好きなんです。

分校の生徒の一人川本松江は、小学5年の始めに母親を出産で亡くし、弟の子守で学校にも行けず、その後奉公に出された、でもどこに行ったのかは誰も知りませんでした。

あるとき、大石先生と分校の生徒が修学旅行で金毘羅参りに出かけました。大石先生は、参道沿いにある料理屋で女中として働く松江に偶然出会いました。大石先生は涙むく松江を励まして外に出るのですが、その先生の後を松江は追いかけます。

ところが、参道から生徒たちが「大石先生」と言って寄ってくるのを見て、松江は、思わず参道脇の路地に身を隠してしまいます。自分のみじめな境遇を知られたくなかったんですよね。

数年前、金毘羅神社に行き、映画の舞台になった路地を観てきました。映画のときのままでした。映画も本もホントにいいです。是非どうぞ。



新潟県の現在地

県財政の話

県議会2月定例会で、令和6年度予算案が可決されました。

この日誌では、予算や財政のことをご紹介していきます。自治体の事業は何をするにもお金がかかります。お金の動きを見ることは重要だからです。

ただし、予算とか財政の話は、正直苦手です。もしかしたら、間違ったことを書いてしまうか

もしれません。間違いに気づいたらご指摘ください。

●借金返済に縛られる予算

左の二つの円グラフは、新潟県の令和6年度当初予算の内容が示されたものです。上が歳入(収入のこと)、下が歳出(支出のこと)です。

見慣れた図ですが、問題意識を持ちながら分析することが必

要です。

まずは、歳出の公債費2865億4100万円(①)、全体の22.3%、歳入の県債2001億100万円(②)、全体の15.6%に着目します。これによれば、1年で実質864億4000万円(①-②)③、全体の7.1%を借金の返済に充てることとなります。

●県の負債残高、返済年数

県の負債残高は、令和5年度末で約2兆3343億円(④)、後に交付税措置により県が負担しなくともよい臨時財政対策債も含みます)です。

令和6年度の返済金で完済するには27年(④÷③)かかります。

ただし、この数字は利息を考慮していません。例えば、年利を0.8%とすると、完済するまでに30年かかります。膨大な借金を抱え、厳しい資金繰りを強いられるといえます。また、今後年利が高くなれば、利息額も膨らむこととなります。

●専門的な指標も厳しい財政状況を裏付けています。

単年度の収入に占める借金返済の割合を示す「実質公債費率」は18.2%で全都道府県のワースト2(一位は北海道)、単年度の収入に対して今後の支払いが必要となる負債総額の割合を示す「将来負担比率」は303.5%でワースト3(一位兵庫県、二位北海道)です。県が抱える負債額が大きいため、県予算も住民の要求(教育福祉など)に応えることができない、というのが新潟県の現在の財政状況なのです。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
 住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
 ダイアパレス高田武番館2階
 電話 025-546-7110
 ファックス 025-546-7666
 メール kengi-pabahideyuki@wind.ocn.ne.jp